

単元名 みんなで合わせて

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と声部の役割など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりに気付くとともに、互いの歌声や伴奏を聴いて、声や音を合わせて演奏する技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律やリズム、楽器の音の響きや重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 音を合わせて演奏することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、1年間の学習を生かして主体的・協働的に学習に取り組もうとする。

標準的な展開例

03070304_001

【教材名】パフ（歌唱 器楽）（P. 56～P. 57）

【準備等】範奏CD，リコーダー，木琴，シンセサイザー，オルガンなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「パフ」を、主旋律を歌ったり、リズム打ちや階名唱をしたりして、曲の感じをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主旋律（1）を歌詞唱する。 ★パートをえらんで、みんなでえんそうをくふうしよう ・範唱を聴き、曲の感じをつかむ。 ・情景や気持ちを思い浮かべながら、1～5番まで歌詞唱する。 ・歌詞の物語全体を理解する。 ・＜もっとあそぼう＞を使ってリズム伴奏を加えて歌う ○主旋律をリコーダーで演奏する。 ・主旋律を階名唱する。 ・主旋律をリコーダーで演奏する。 ○旋律2を演奏する。 ・旋律を「ル」で歌って覚える。 ・旋律を階名唱する。 ・リコーダーなど楽器で演奏する。 ○旋律と副旋律のパートを楽器で演奏する。 ・1と2のグループに分かれて合わせる。 <p>2 「パフ」をそれぞれのパートに合う楽器を選び、アンサンブルを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1と2のパートを楽器で演奏するとともに、低音パートの音を確認する。 ・前時を振り返り、主旋律を歌詞唱した後、1と2のグループに分かれて合わせる。 ・低音パートを全員で階名唱・運指唱する。 ○グループに分かれ、担当するパートを決めて練習する。 ・パートの役割について話し合う。 ・各パートの担当を決める。 ・声や楽器など、演奏する方法も考える。 ・リズムをタンブリンなどで加えてもよい。 <p>○グループごとに中間発表をする。</p> <p>3 グループやクラスで合唱奏をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループで練習する。 ・前時の中間発表を振り返り、表現を工夫しながらまとめていく。 <p>○グループごとに発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの演奏を聴き合う。 <p>○グループごとにリレー演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏するグループの順番を決める。 ・1コーラスずつ演奏して続けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の挿画も参考にしながら、興味をもたせる。 ・歌詞唱しながら繰り返し歌い、主旋律を覚えられるようにする。 ・旋律の反復と変化を意識させる。 ・足踏み＋手拍子により、体全体でリズムの流れを感じながら歌うようにする。 ・拍にのって演奏するようにする。 ・2段目と4段目の2小節目のシンコーペーションのリズムに注意させる。 ・最初の小節の休符と、2小節目の休符に注意する。 ・2段ごとの大きなまとまりで感じるようにする。 <p>【共通事項】旋律 リズム</p> <p>【評】曲想と声部の役割など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりを捉えて表現する活動を通して「知識」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低音を演奏する楽器をグループの数用意する <ul style="list-style-type: none"> ・6人程度のグループで練習させる。 ・鍵盤楽器やリコーダーの得意な児童が、どのグループにもいるように分けるとよい。 ・練習場所を設定し、範奏の音源を聴けるようにしておくといよい。 ・パートの役割については、「せいじゃの行進」の学習を思い出させる。ただし「パフ」の1と2は「呼びかけとこたえ」の関係ではないことに留意する。 ・低音パートは速くならないよう、拍にのって演奏することを確認する。 <p>【評】互いの歌声や伴奏を聴いて、声や音を合わせて演奏する活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの音を聴き合い、バランスを考えながら演奏できるようになるとよい。 ・歌詞の内容に合わせ、コーラスによって楽器を変えたり、ソロの場面をつくるなどの工夫も考えられる。 <p>【共通事項】音の重なり</p> <p>【評】旋律やリズム、楽器の音の響きや重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスで一緒に合唱奏してまとめてもよい。 <p>【評】1年間の学習を生かしながら音を合わせて演奏する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

・演奏している以外の子どもたちは歌詞唱する。

【 備 考 】